

## 第 5 章 都市づくりの目標

---



### 5-1 都市づくりにおける課題

これまでの現況の把握や住民意向調査の結果を踏まえ、今後の本町の都市づくりの課題について、下記のとおり項目ごとに整理します。

#### (1) 人口、交流

- 今後も人口が増加し続けることが予測されるため、計画的な市街地の形成が必要です。
- 今後も高齢化が進んでいくことが予測されるため、高齢者にとって健康でかつ元気に生活できる環境づくりやユニバーサルデザインの推進が必要です。
- 地域住民同士の連帯感の希薄化や地域コミュニティ活動の担い手不足に対する対策が必要です。

#### (2) 産業

- 農業就業人口の減少や担い手の高齢化が進んでいる中で、農業就業者数を確保し、農業環境を維持していくことが必要です。
- 商工業は、製造品出荷額や商品販売額が増加傾向にあるため、引き続き維持していくことが必要です。

#### (3) 土地利用

- 宅地化が進んでいる中で、緑地や農地などの自然環境を保全していくことが必要です。
- 市街化区域の未利用地などの計画的な整備や市街化調整区域の地区計画制度などの適切な運用が必要です。

#### (4) 建物

- 空き家は減少しているものの、管理不全な空き家が防災、防犯上、深刻な問題となっていることから、空き家の有効活用や町全体で管理体制を構築するなどの対策が必要です。

#### (5) 交通体系

- 公共交通の利用者数は増加傾向にあり、今後も高齢化が進んでいく中で、利用しやすい公共交通の充実や高齢者への配慮が必要です。
- 日常的に利用する生活道路の走行性や安全性の確保が必要です。
- 白川や鉄道によって町は南北に分断されており、今後、中九州横断道路の整備も進んでいくことから、南北方向の移動環境の確保が必要です。

#### (6) 都市施設

- 整備途中である都市計画公園や下水道施設の計画的な整備が必要です。
- 「観光」という新たな視点での都市公園の活用を進めていくため、既存公園の機能の充実や計画的な整備が必要です。

(7) 災害

- 今後も災害が発生する可能性があることから、これまでの災害の教訓を活かした対策が必要です。
- 避難所の受入環境を整えるために、既存施設との連携や防災設備の追加などが必要です。
- 災害時に、住民同士の助け合い（共助）が円滑に進むための体制づくりが必要です。
- 災害時における住民の避難経路や緊急車両の移動経路の確保が必要です。

(8) 地域固有の資源

- これまで受け継がれてきた史跡や伝統行事を引き続き維持していくことが必要です。

(9) その他（都市づくり参加意向）

- 社会情勢の変化により多様化する住民ニーズを反映させた都市づくりが必要です。



▲ 菊陽町における課題イメージ図

## 5-2 都市づくりの目標

本町の課題を踏まえた上で、今後の都市づくりの基本となる重点目標を次のように整理します。

### 重点目標①『人口増加や高齢化に備えた計画的な都市づくり』

- 計画的な市街地の形成
- 高齢者に配慮した環境づくりやユニバーサルデザインの推進
- 都市計画公園や下水道施設の計画的な整備

### 重点目標②『まちの活力や魅力が維持、向上された都市づくり』

- 未利用地などの計画的な整備や地区計画制度などの適切な運用
- 既存公園の機能の充実や計画的な整備
- 製造品出荷額や商品販売額の維持
- 農業就業者数の確保や農業環境の維持
- 緑地や農地などの自然環境の保全
- 史跡や伝統行事の維持

### 重点目標③『移動しやすい環境が形成された都市づくり』

- 利用しやすい公共交通の充実
- 生活道路の走行性や安全性の確保
- 南北方向の移動環境の確保
- 災害時における住民の避難経路や緊急車両の移動経路の確保

### 重点目標④『安全安心が確保された都市づくり』

- 空き家の有効活用や管理体制の構築
- 災害の教訓を活かした対策
- 災害時における既存施設との連携や防災設備の追加

### 重点目標⑤『町民と行政が連携した都市づくり』

- 地域コミュニティ活動の担い手不足への対応
- 住民同士の助け合い（共助）が円滑に進むための体制づくり
- 多様化する町民ニーズを反映させた都市づくり